

II . 現状把握と課題

- | 01 | 都市構造の現状把握
- | 02 | 市民意向の現状把握
- | 03 | 課題の整理

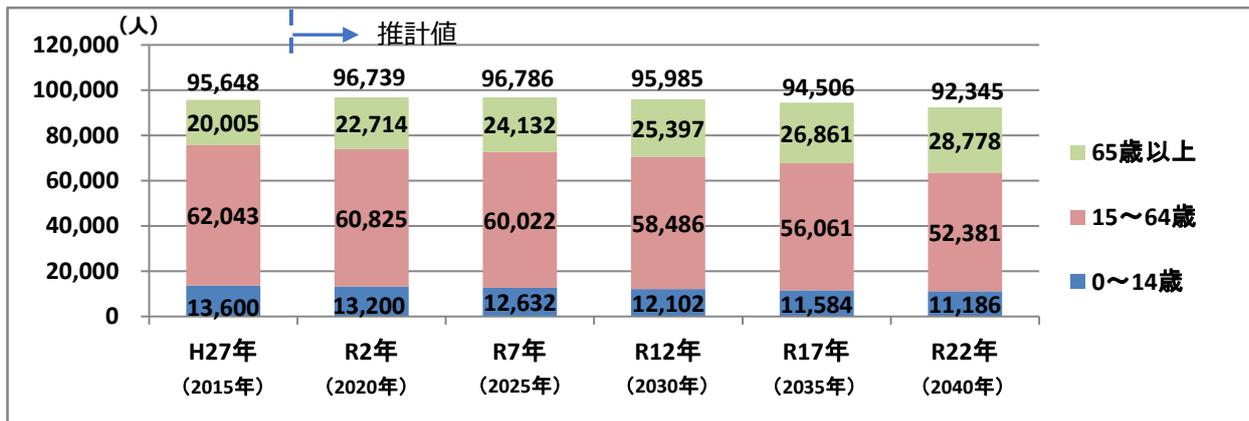
II. 現状把握と課題

| 01 | 都市構造の現状把握

□ 人口

- 千歳市の総人口は、国立社会保障・人口問題研究所*による推計において、平成 27 年（2015 年）を基準にした場合、令和 12 年（2030 年）まで上回っており、ピークとなる令和 7 年（2025 年）の推計人口は 96,786 人となっています。また、少子高齢化が徐々に進行することが推計されています。
- 令和 2 年（2020 年）の国勢調査では、総人口が 97,950 人であり、推計のピーク値を上回っています。
- 市街化区域*内人口は、令和 7 年（2025 年）まで増加し、その後減少に転じ令和 22 年（2040 年）には 87,947 人となりますが、基準年を上回る推計となっています。

図 年齢区分別総人口の将来推計



資料：平成 27 年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 総人口及び将来推計人口

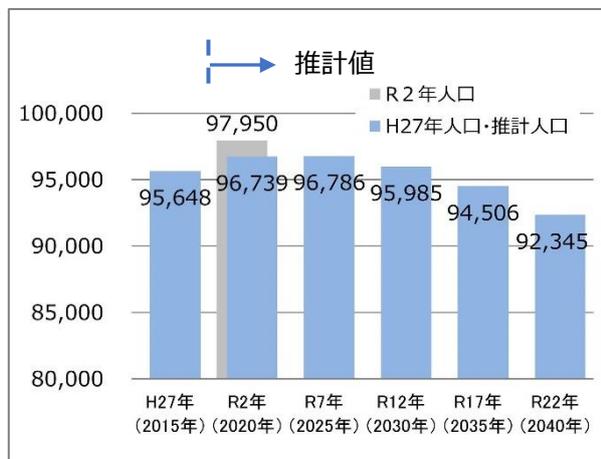
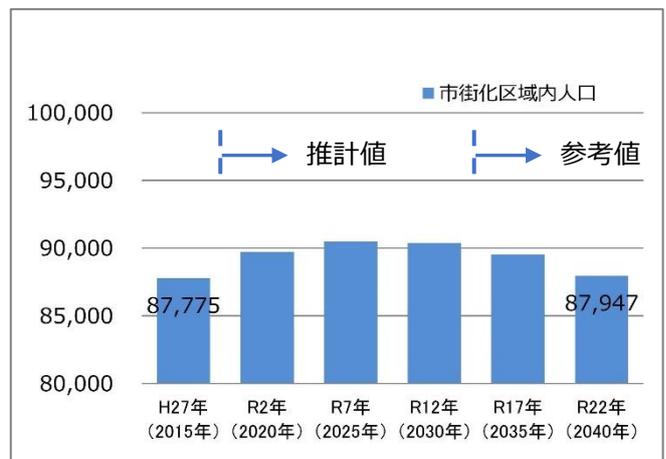


図 市街化区域内人口の将来推計

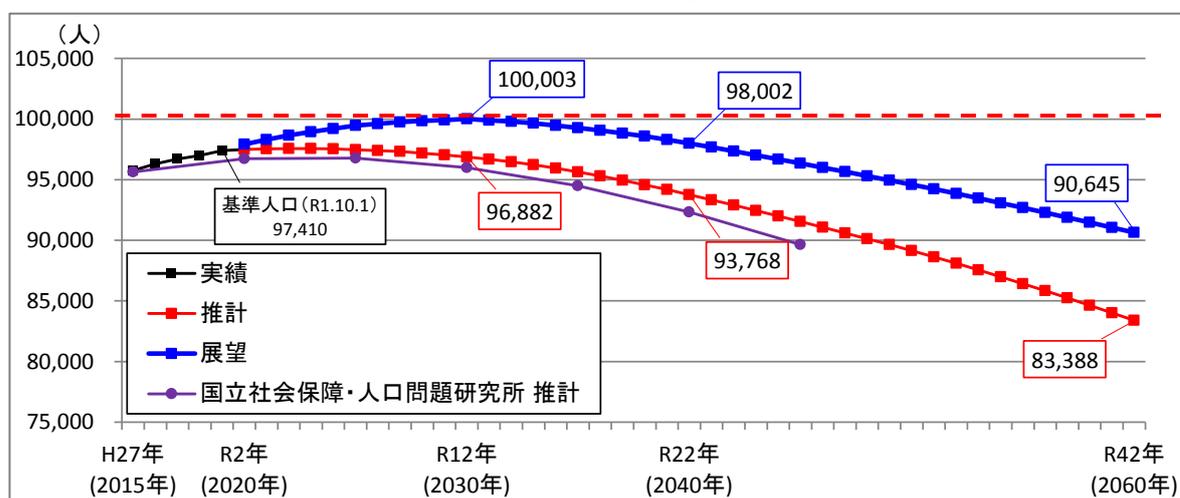


資料：平成 27 年国勢調査、令和 2 年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所、千歳恵庭圏都市計画区域区分の資料より作成

□ 人口の将来展望

- ・令和3年（2021年）3月に策定した千歳市第7期総合計画において、令和12年（2030年）の人口の将来展望を10万人としています。
- ・将来展望は、住民基本台帳の人口を基にした「推計」に加え、合計特殊出生率*を段階的に向上させるとともに、毎年の転入超過数を令和4年（2022年）までは、450人、令和7年（2025年）までは400人、令和12年（2030年）までは300人、その後は150人が継続するものとしています。

図 人口の将来展望



資料：令和2年千歳市人口ビジョン（改訂）

□ 人口密度

- ・平成 27 年（2015 年）の人口密度は、居住可能な市街化区域*全域でおおむね 40 人/ha 以上となっており、JR 千歳駅周辺などでは 100 人/ha 以上の高い人口集積がみられます。
- ・令和 22 年（2040 年）の人口密度は、居住可能な市街化区域*全域でおおむね 40 人/ha 以上を維持しており、100 人/ha 以上の地区が増加する推計となっています。

図 平成 27 年人口密度（100メートルメッシュ）

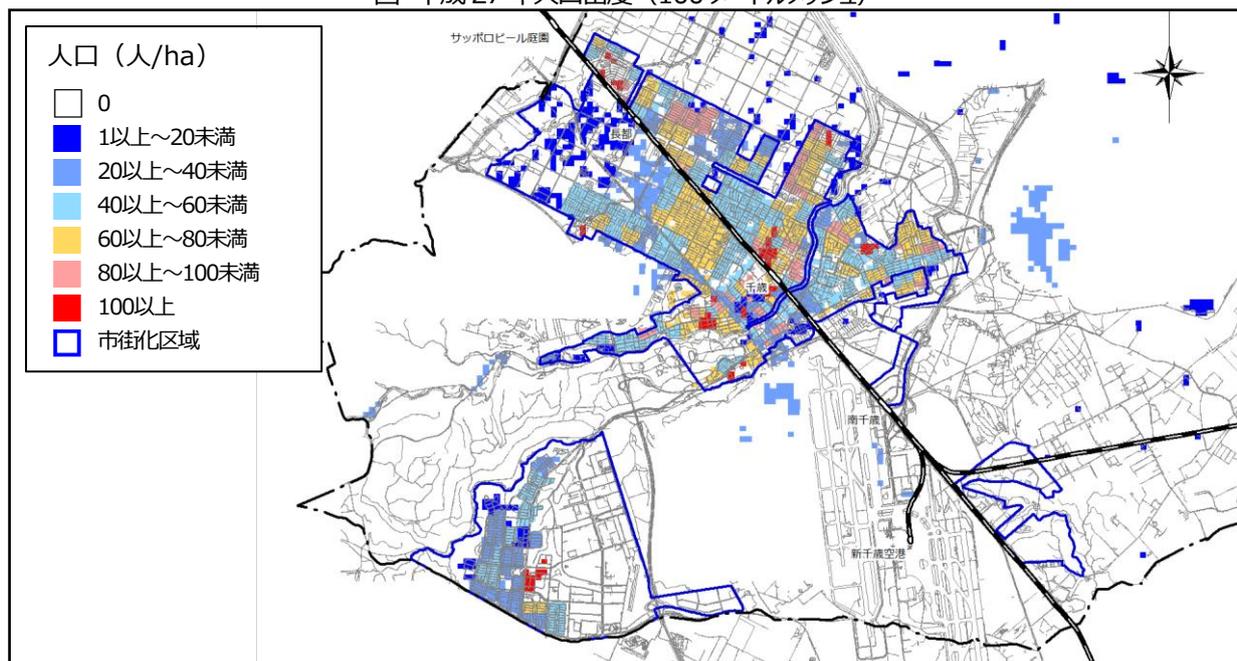
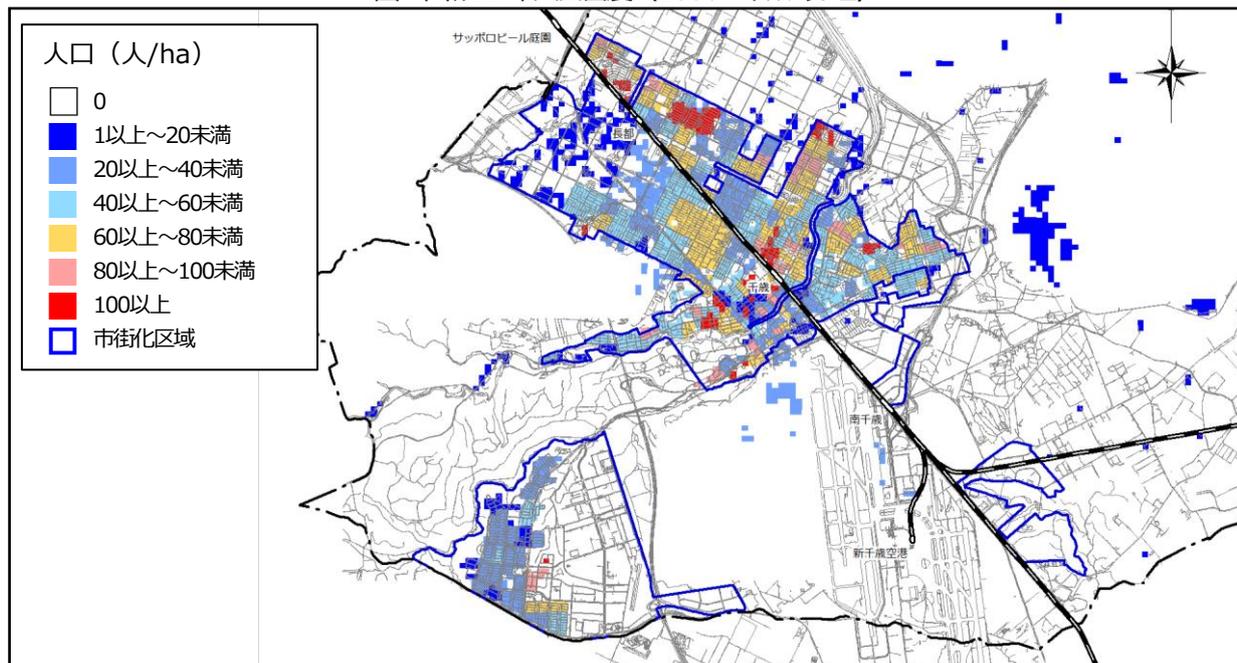


図 令和 22 年人口密度（100メートルメッシュ）

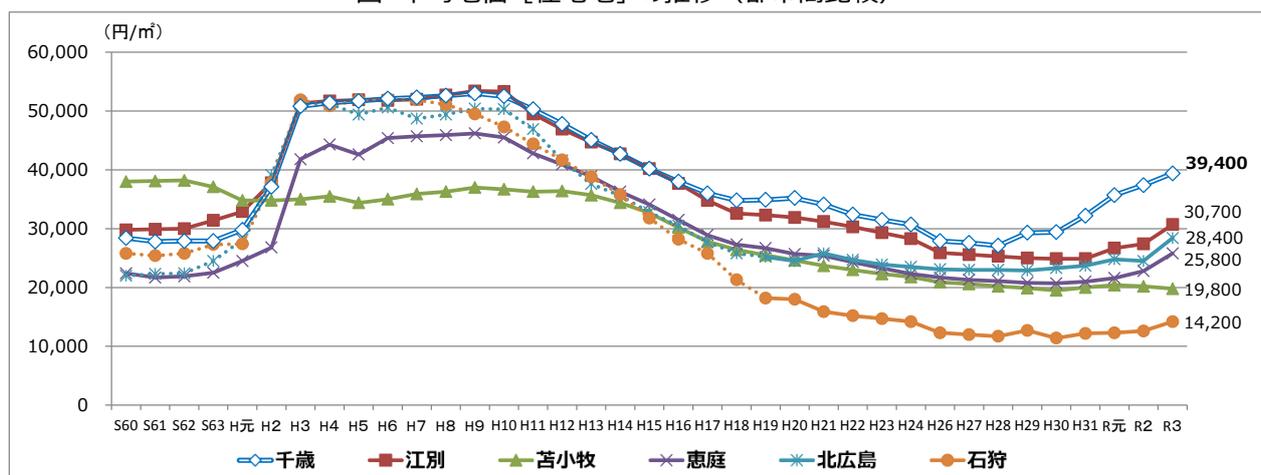


資料：国土交通省 国土技術政策総合研究所 「将来人口・世帯予測ツールV2」

□ 地価

- ・北海道地価調査*における住宅地の平均地価は、道央圏の他都市と比べて、高い水準で推移しています。
- ・国土交通省地価公示*における市内各地点の地価は、下落が続いていましたが、近年、住宅地や商業地で上昇傾向となっています。

図 平均地価〔住宅地〕の推移（都市間比較）



※平成 19 年以前の石狩市、北広島市は、「石狩郡石狩町」「札幌郡北広島町」のデータを引用
資料：各年北海道地価調査

図 市内各地点の地価公示の推移（商業地）

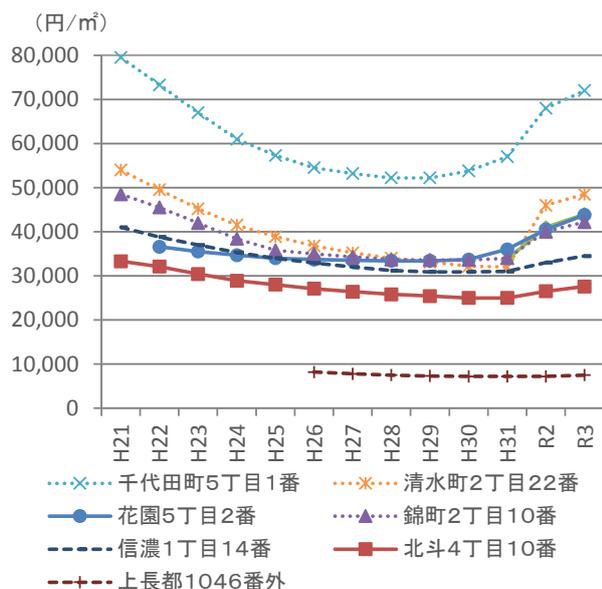
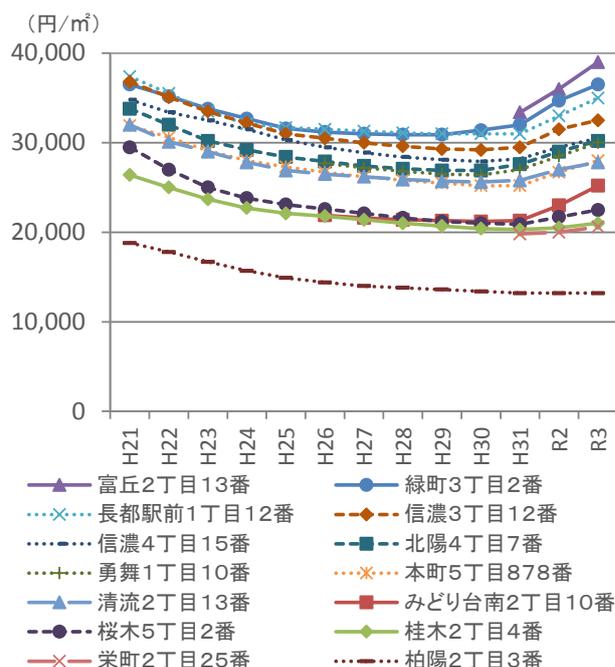


図 市内各地点の地価公示の推移（住宅地）



資料：国土交通省地価公示

□ 高齢化率

・65歳以上の高齢者が占める割合は、平成27年（2015年）では大半の地域が30%未満（青系）となっていますが、令和22年（2040年）では30%以上（黄系）の部分が増加し、高齢化が進展する推計となっています。

図 平成27年高齢化率（100メートルメッシュ）

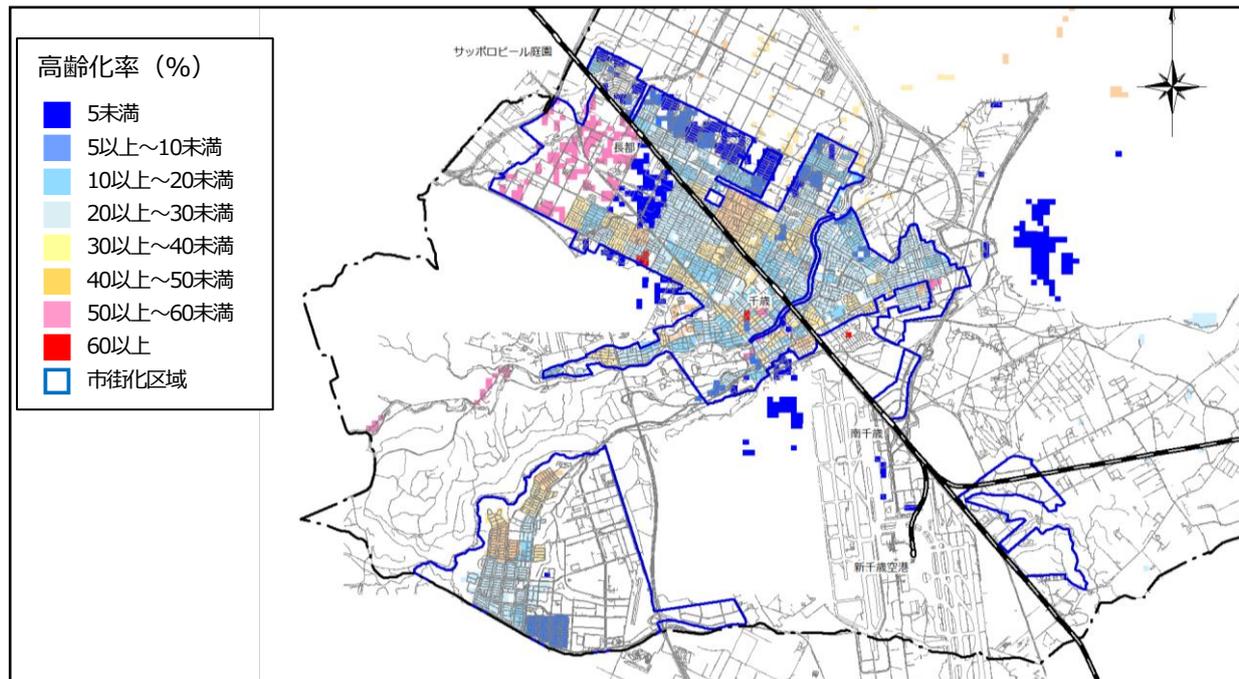
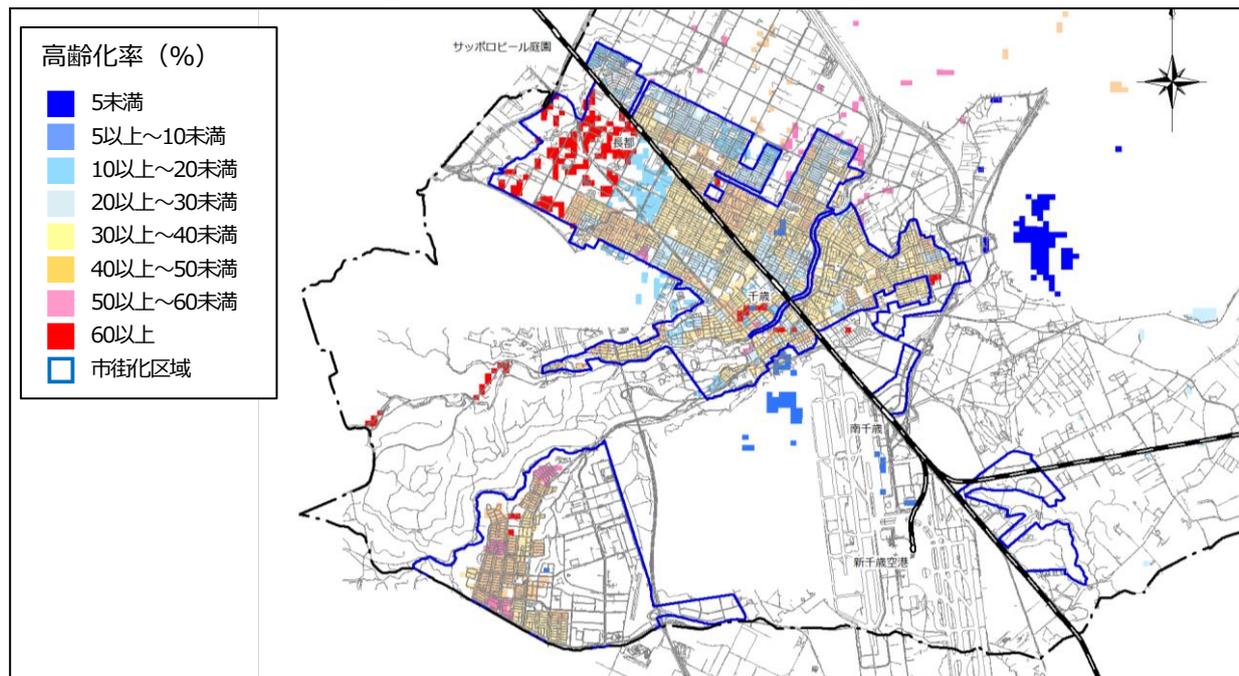


図 令和22年高齢化率（100メートルメッシュ）



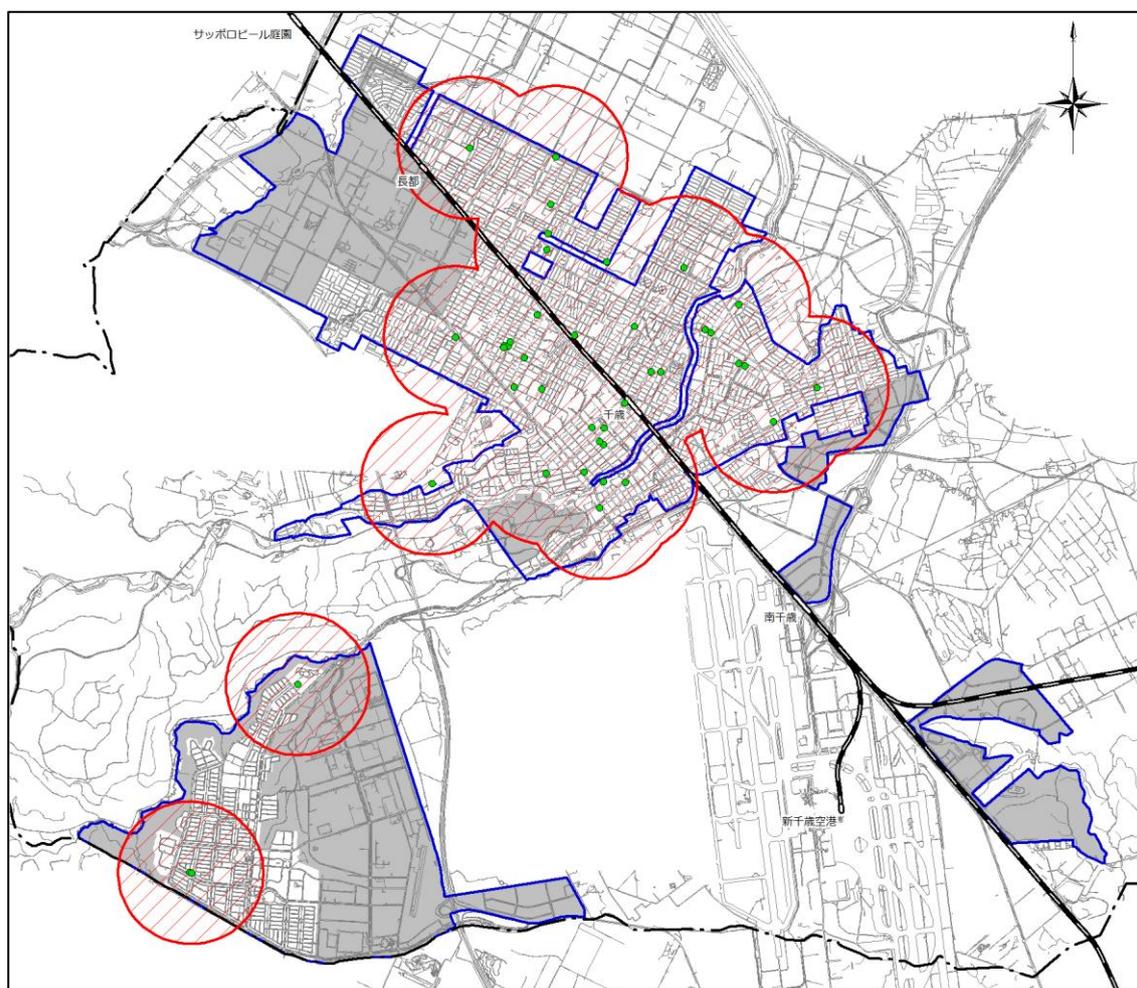
資料：国土交通省 国土技術政策総合研究所 「将来人口・世帯予測ツールV2」

□ 生活利便施設

■ 医療施設

- ・医療施設（歯科を除く病院、医院、クリニック、診療所）は、市内各地に分布しており、徒歩圏である施設を中心とした半径 800m の範囲（徒歩 10 分以内の範囲）は、居住可能な市街化区域全域をおおむねカバーしています。
- ・徒歩圏の人口カバー率は、約 86% となっています。

図 医療施設の徒歩圏



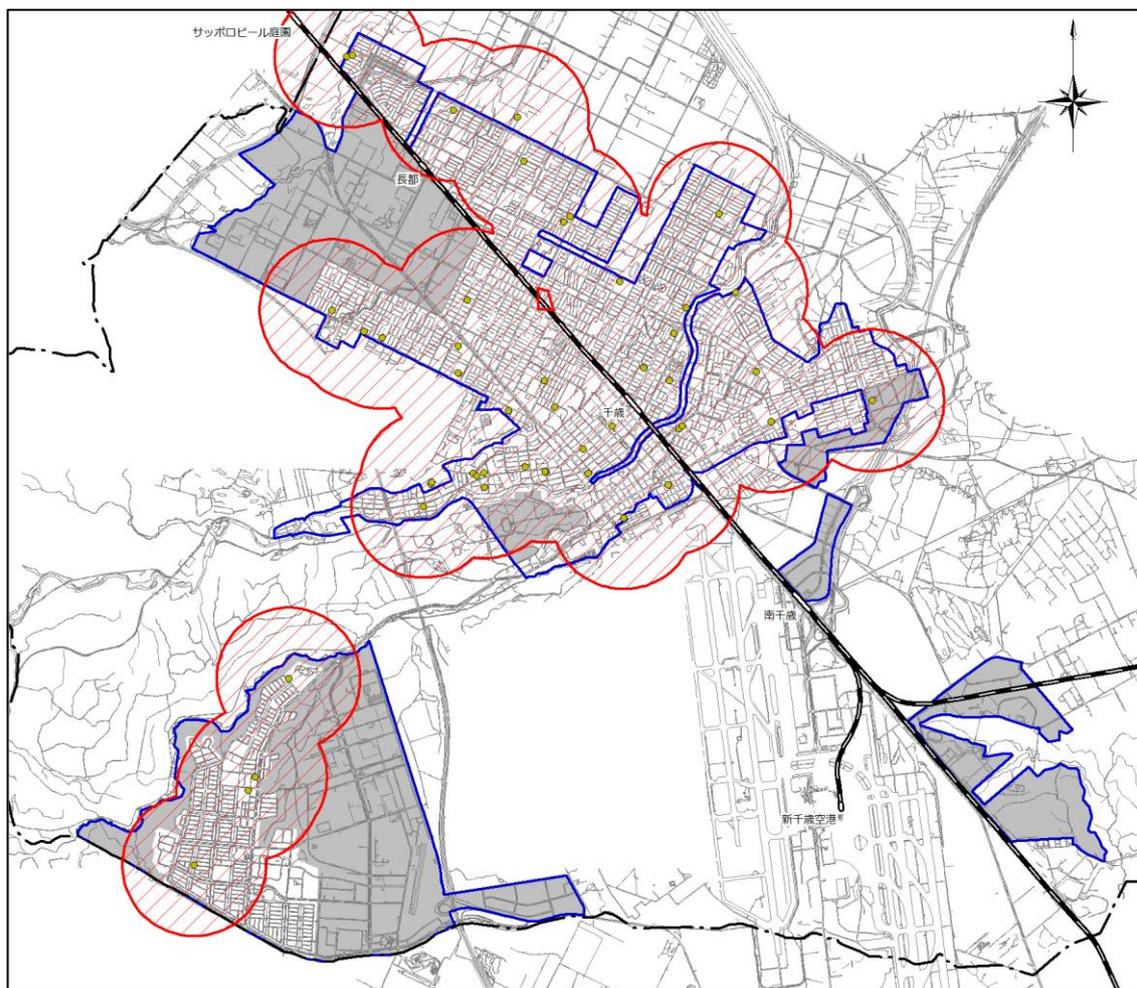
資料：医療施設の位置は、iタウンページより収集

	市街化区域
	工業専用地域等
	都市計画区域
	医療施設 徒歩圏 (800m)
	医療施設

■ 福祉施設

- ・福祉施設（デイサービスセンター、グループホームなど）は、市内各地に分布しており、徒歩圏である施設を中心とした半径 800m の範囲（徒歩 10 分以内の範囲）は、居住可能な市街化区域*全域をおおむねカバーしています。
- ・徒歩圏の人口カバー率は、約 95% となっています。

図 福祉施設の徒歩圏



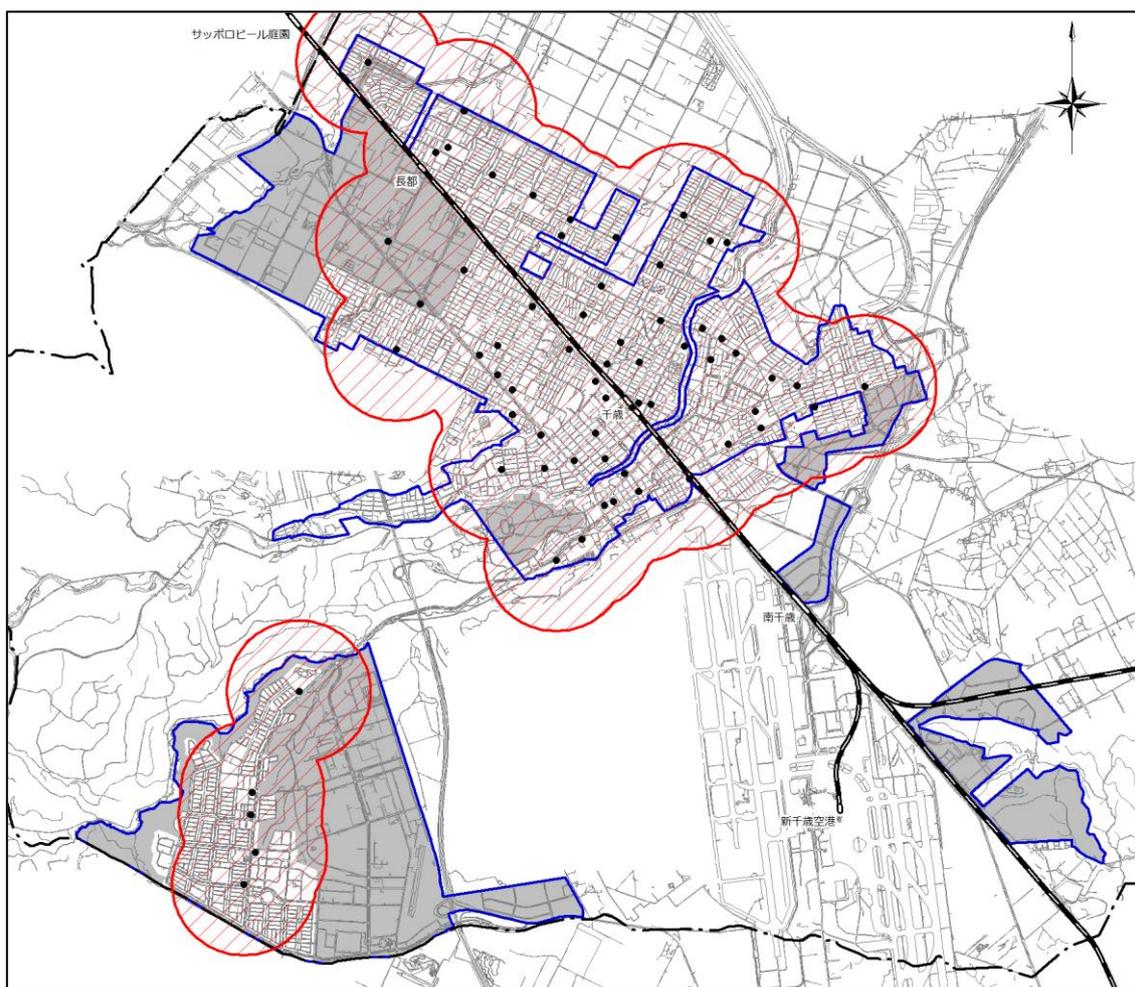
資料：福祉施設の位置は、千歳市ホームページ、iタウンページより収集

	市街化区域
	工業専用地域等
	都市計画区域
	福祉施設 徒歩圏 (800m)
	福祉施設

■商業施設

- ・商業施設（スーパーマーケット、コンビニエンスストア）は、各地に分布しており、徒歩圏である施設を中心とした半径800mの範囲（徒歩10分以内の範囲）は、居住可能な市街化区域*全域をおおむねカバーしています。
- ・徒歩圏の人口カバー率は、約96%となっています。

図 商業施設の徒歩圏



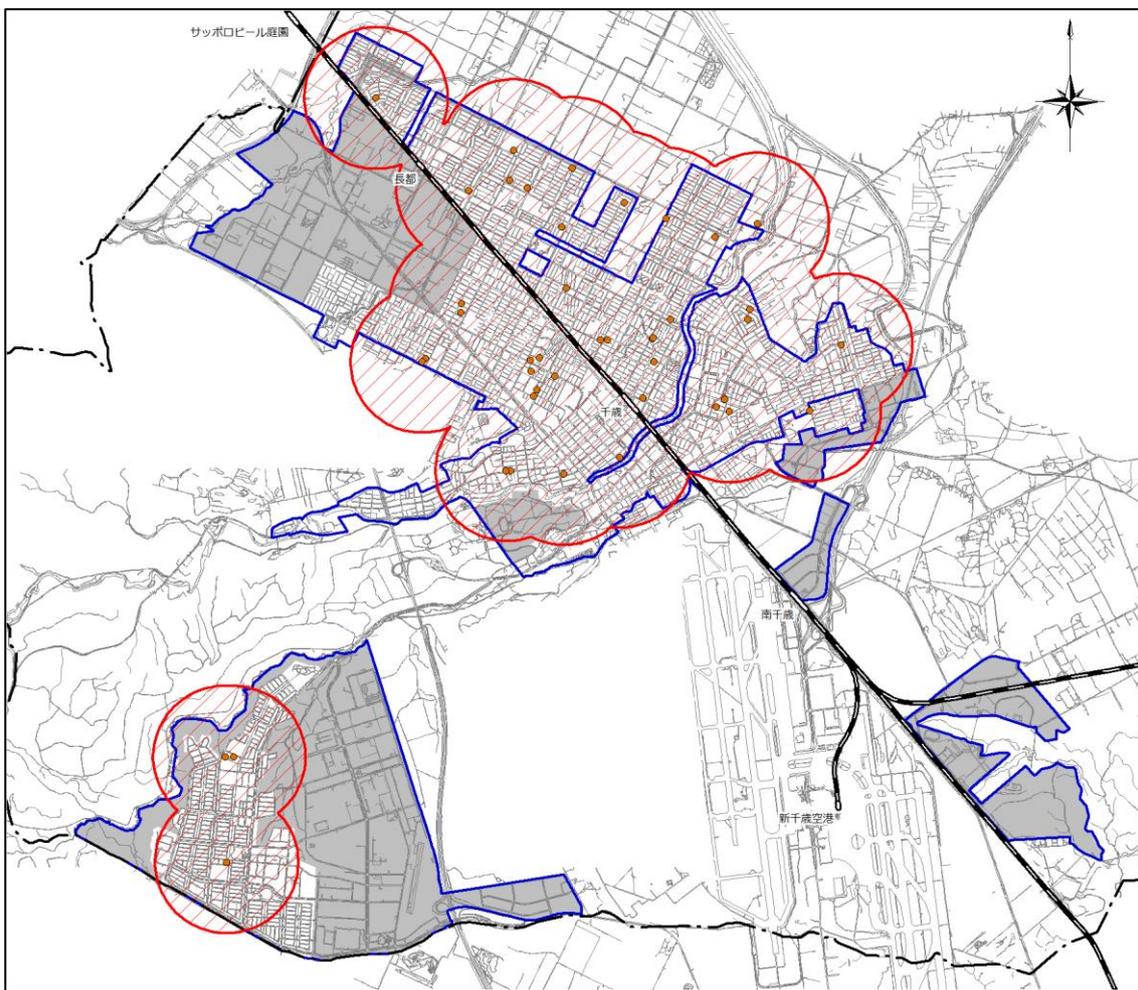
資料：商業施設の位置は、iタウンページより収集

	市街化区域
	工業専用地域等
	都市計画区域
	商業施設 徒歩圏 (800m)
	商業施設

■ 子育て支援施設

- ・ 子育て支援施設（幼稚園、保育園、認定こども園、児童館など）は、市内各地に分布しており、徒歩圏である施設を中心とした半径 800m の範囲（徒歩 10 分以内の範囲）は、居住可能な市街化区域*全域をおおむねカバーしています。
- ・ 徒歩圏の人口カバー率は、約 93% となっています。

図 子育て支援施設の徒歩圏



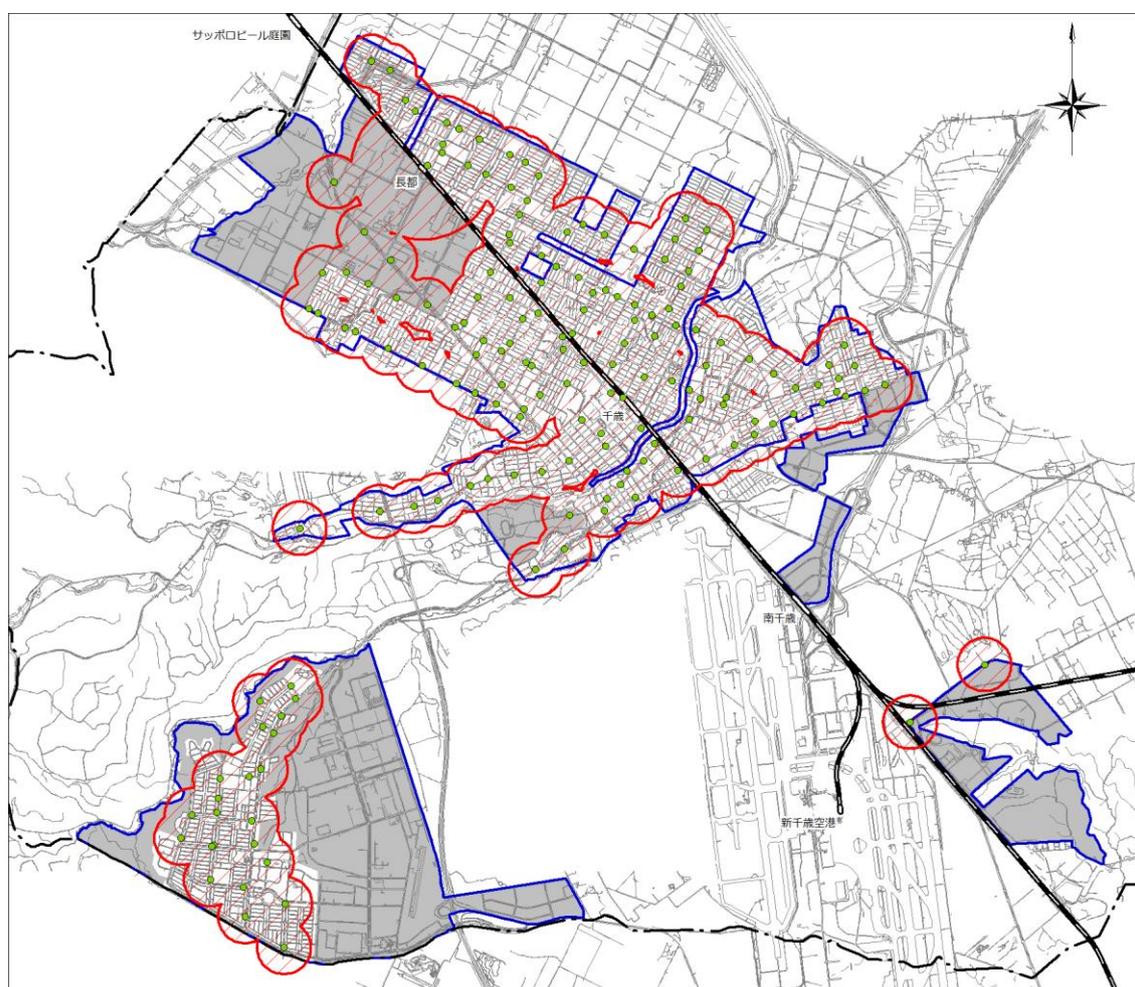
資料：子育て支援施設の位置は、千歳市ホームページより収集

	市街化区域
	工業専用地域等
	都市計画区域
	子育て支援施設 徒歩圏 (800m)
	子育て支援施設

□ 公共交通

- ・鉄道・バスは、JR 千歳駅や市立千歳市民病院を交通結節点として生活交通体系を構築しており、JR 駅を中心とした半径 800m及びバス停を中心とした半径 300mの範囲は、居住可能な市街化区域*全域をおおむねカバーしています。
- ・徒歩圏の人口カバー率は、約 88%となっています。

図 公共交通機関の徒歩圏



資料：バス停の位置は、千歳バスマップより収集

	市街化区域
	工業専用地域等
	都市計画区域
	J R 駅徒歩圏 (800m)
	バス停徒歩圏 (300m)
	バス停

□ 財政

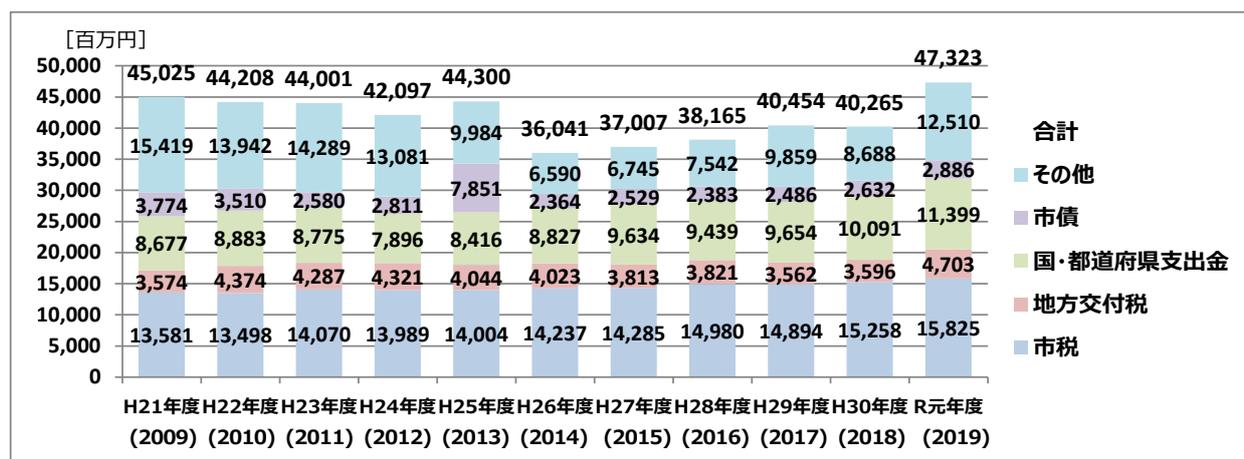
- ・財政力指数*は、道内他都市と比較し、高い水準にあります。
- ・歳入のうち、市税は人口増加を反映して増加傾向にあります。
- ・歳出のうち、医療費などを含む扶助費*は、年々増加傾向にあります。

図 各都市の財政力指数



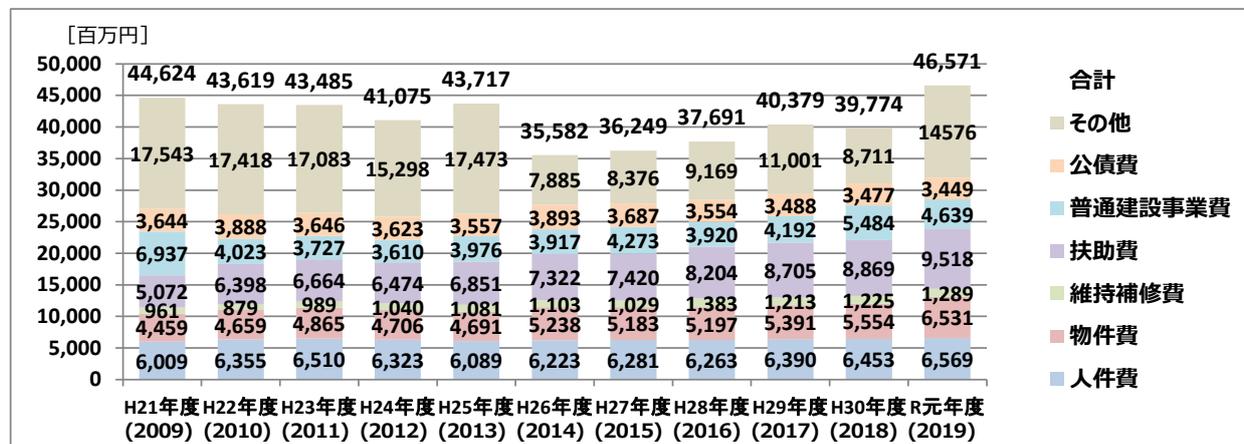
資料：北海道 HP※H29～R1 の平均

図 歳入の推移



資料：市町村別決算状況調

図 歳出の推移

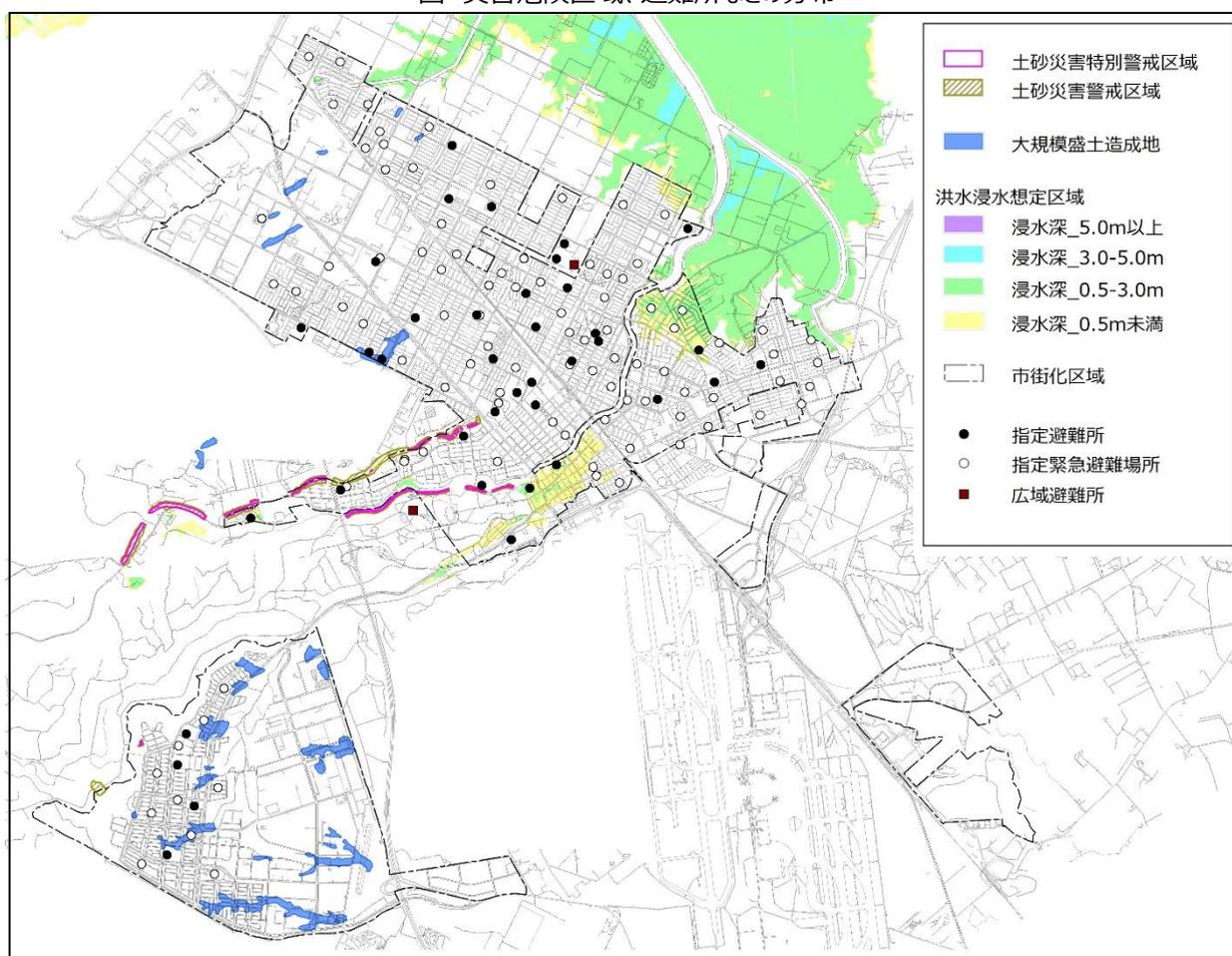


資料：市町村別決算状況調

□ 災害

- ・土砂災害特別警戒区域*及び土砂災害警戒区域*は、緑町や大和、桂木などに指定され、土砂災害の発生が懸念されます。
- ・洪水浸水想定区域*（想定最大規模）は、東郊や豊里、幸福、東雲町、朝日町、本町、真々地などに分布しています。
- ・大規模盛土造成地*は、泉沢地域や市街地の西部に分布しています。

図 災害危険区域、避難所などの分布



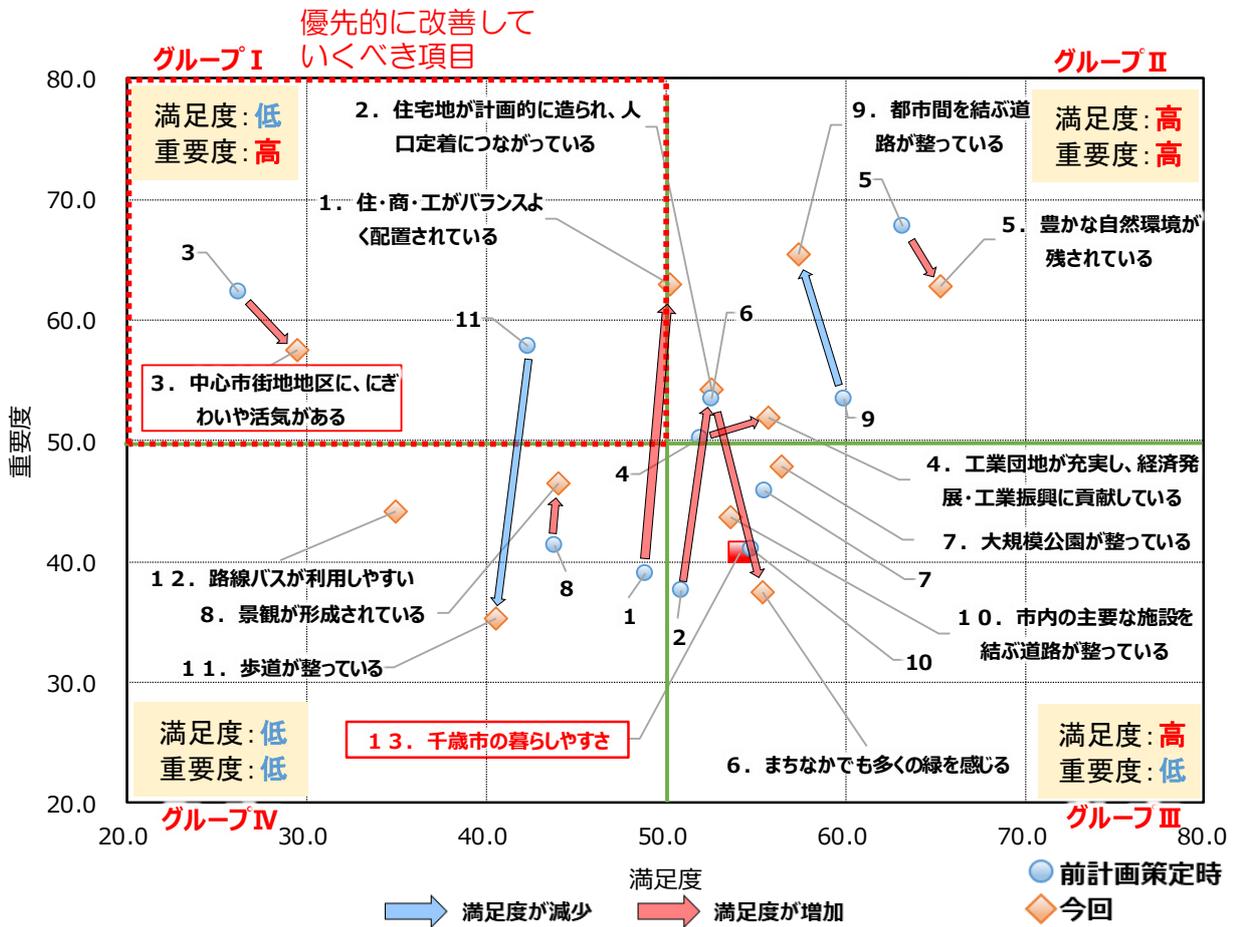
資料：北海道土砂災害警戒情報システム
 千歳市洪水・土砂災害ハザードマップ
 千歳市ホームページ

02 | 市民意向の現状把握

まちづくりに対する市民意向などを把握し、今後のまちづくりに活かしていくため、市民アンケート調査を実施しました。

千歳市全体の都市づくりの満足度・重要度

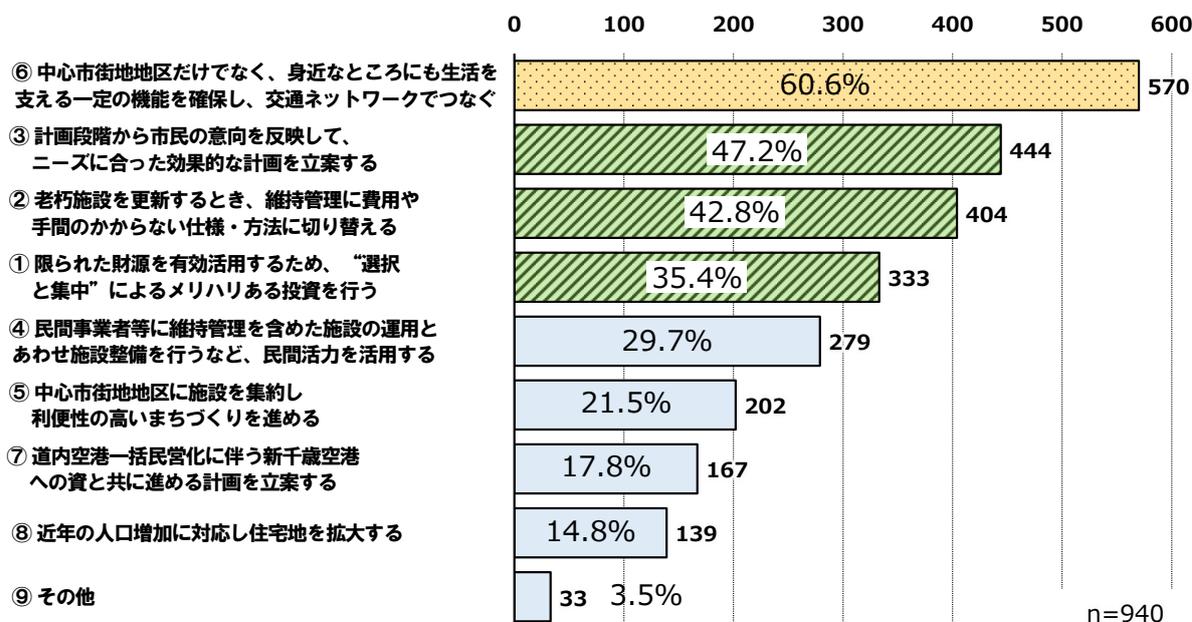
- 都市づくりについて満足度が高かった項目は、「豊かな自然環境が残されている」、「都市間を結ぶ道路が整っている」、「大規模公園が整っている」などです。この結果は第2期都市計画マスタープラン策定の際に実施したアンケート結果と一致しています。
- 満足度が低かつ重要度が高い項目は、優先的に改善していくべき項目であり「中心市街地地区に、にぎわいや活気がある」となっています。



出典：令和元年度 千歳市の今後のまちづくりに関する市民アンケート

□ 今後のまちづくりの進め方

・将来にわたって住み続けられる千歳市を実現するため、今後求められるまちづくりの進め方として、「中心市街地地区だけでなく、身近なところにも生活を支える一定の機能を確保し、交通ネットワークでつなぐ」が最も多くなっており、60.6%の方が選択しています。



出典：令和元年度 千歳市の今後のまちづくりに関する市民アンケート

03 | 課題の整理

「01 | 都市構造の現状把握」に示したとおり、千歳市の推計人口は、推計の基準年である平成27年（2015年）の国勢調査人口を令和12年（2030年）まで上回り、以降は下回る推計となっていますが、立地適正化計画の主な対象区域となる市街化区域*内人口に限った場合、令和22年（2040年）まで基準年を上回る推計となっています。つまり、本計画の計画期間内は人口増加期であると言えますが、将来の人口減少に備えた持続可能なまちづくりのため、人口増加期及び人口減少期の両期間について課題の整理を行います。

項目	課題	
	人口増加期	人口減少期
人口	<ul style="list-style-type: none"> これまでコンパクトなまちづくりを進めてきており、住宅用地の供給量減少が原因と想定される地価の上昇がみられることや総人口・市街化区域*内人口が令和7年（2025年）まで増加の推計となっていることから、居住の場が不足する恐れがあります。 <p>▷ 【子育て世代を含む生産年齢層*を中心としたニーズに対応する居住の場を確保する必要があります。】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化の進展や人口減少により、一定の居住密度により支えられてきた都市機能*の維持が困難になり、生活利便性が低下することで更に人口が減少する恐れがあります。 <p>▷ 【生活利便性を確保し、高齢化対策や人口の維持を図る必要があります。】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 人口増加期においても他地域に比べ人口減少が推計されている泉沢地域では、少子高齢化や人口減少が他地域に比べ、より進む恐れがあります。 <p>▷ 【泉沢地域は、子育て世代を含む生産年齢層*を中心とした居住誘導を図る必要があります。】</p>	
都市機能	<ul style="list-style-type: none"> 空港機能の強化や民営化、高速インターチェンジの開通などを背景に中心市街地などでは共同住宅や宿泊施設などの建設が進み、地価上昇の兆しが見られます。 <p>▷ 【人口増加を維持していくため、集積している都市機能*を生かし、都市の活力増進を継続する必要があります。】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少や築年数の古い建物が集中し高齢化が進む地区では、都市のスポンジ化*の進展により、一定の人口密度に支えられた都市機能*の維持が困難になる恐れがあります。 <p>▷ 【生活利便性を低下させないよう都市機能*を維持する必要があります。】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 都市づくりの各分野について満足度・重要度を質問したアンケート結果では、「中心市街地地区に、にぎわいや活気がある」について満足度が低くかつ重要度が高い評価となっています。 <p>▷ 【中心市街地地区に、にぎわいや活気を創出する必要があります。】</p>	

項目	課題	
	人口増加期	人口減少期
都市機能	<p>・市民の生活を支える医療施設、福祉施設、商業施設及び子育て支援施設の分布とそれによる徒歩圏は、居住可能な市街化区域*をおおむねカバーしていますが、高齢化の進展により、高齢者の利便性が低下する恐れがあります。</p> <p>▷ 【高齢者のみならず子育て世代を含む生産年齢層*の市民が便利で健康的に歩いて暮らせるよう利便性の高い地区の形成を進めていく必要があります。】</p>	
公共交通	<p>・JR 千歳駅や市立千歳市民病院を交通結節点とした鉄道・バスによる生活交通体系を構築していますが、少子高齢化の進展により、利用者数が減少する恐れがあります。</p> <p>▷ 【使いやすい公共交通を引き続き確保していく必要があります。】</p>	
財政	<p>・歳入の市税は、人口増加を反映して徐々に増加していますが、歳出の医療費などを含む扶助費*は、年々増加傾向にあり、人口減少や高齢化の進展により、市税の減少や扶助費*の増加が市の財政を圧迫する恐れがあります。</p> <p>▷ 【既存の施設や都市施設*を有効に活用する必要があります。】</p>	
災害	<p>・近年の大雨などによる災害が激甚化*の傾向にあることから、市街地における災害の発生が懸念されます。</p> <p>▷ 【市民や事業者の災害に対する意識啓発を図る必要があります。】</p>	

